

平成21年度 山口県立宇部工業高等学校 学校評価書(全日制) 校長(藤井 博明)

1 学校教育目標
教育目標……校訓「誠と熱」の伝統を継承し、何事に対しても誠意を尽くし、情熱を傾注して努力する意欲的な人間の育成を図る。 中・長期目標…① 平和な社会の形成者として必要な資質の向上を図る。 ② 勤労と責任を重んじ、創造性に富む工業人を養成する。 ③ 誠実で自主性に富む明朗健康な人間の育成を図る。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)
① 校訓「誠と熱」の伝統を継承し、一人ひとりの夢の実現を支援する教育活動を推進している。授業アンケートをもとに授業改善を図り、基礎学力の定着に成果がみられ、年ごとに追認調査受験者は減少している。また、資格取得指導の充実により資格取得への意欲が高まっている。 ② 全教員による登校指導や基本的な生活習慣を身につけさせる指導を計画的に行うことにより、規範意識や服装、生活態度において成果がみられる。 ③ 就職において本年度の求人状況は難しいと予測される。今までの進路指導に加え、さらに明確な情報提供を行い、生徒の進路先への強い意欲と行動力を引き出す強力な支援が求められる。 ④ 運動部、文化部とも活発な活動を行い、全国大会に出場するなど、学校に大きな活気をもたらしている。また、「ものづくり」においても工業高校としての特色を生かし、いろいろなコンテストに出場し実績を残しており、さらに地域と連携した取組にも期待が持たれている。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題
人の誠と熱き心を育む工学会 ① 地域に開かれ、信頼される学校づくりの推進……生徒・保護者の評価を踏まえた教育内容の充実 中学校への広報活動の推進 ② 確かな学力の定着と特色ある工業教育の推進……就職・進学希望進路実現の支援 ものづくり教育及び環境教育の推進 ③ 豊かな心と健やかな体の育成……部活指導の充実 生徒指導の充実、マナーやモラル教育、安全教育の推進 ④ 教職員の協働体制の確立と組織力の強化……研修機会(研究授業、各種研修等)の充実 情報の共有化、迅速・円滑な業務運営の確立

4 自己評価					5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等 評価
総務	保護者に信頼される学校づくりの推進	・学校行事への積極的な参加を推進し、PTA活動の活性化と同時に教職員との連携を図る。	4. 学校行事への参加者が20%増した。 3. 学校行事への参加者が10%増した。 2. 学校行事への参加者が同程度であった。 1. 学校行事への参加者が減少した。	3	PTA総会をはじめとして、各学校行事に保護者の参加の増加を目指し努力した。体育祭や山工祭(文化祭)においては昨年度を上回る参加者を得ることができ、概ね好評であった。総会については、さらに参加者を増やすために実施曜日を再検討することも必要である。	体育祭は地域の人々を楽しみにしている。保護者とともに地域へも積極的な情報発信を行い、信頼される学校づくりを進めてほしい。
	環境美化の推進と安全教育の推進	・校内の環境美化と防災訓練等の安全教育を推進する。	4. 安全教育活動を年間5回以上実施した。 3. 安全教育活動を年間4回以上実施した。 2. 安全教育活動を年間3回以上実施した。 1. 安全教育活動を年間2回以上実施した。	3	学期ごとの防災訓練は主に避難を中心としたものである。生徒には緊張感を更に高めてほしいところが見うけられたが、防災への意識において成果は得られた。環境美化においては、日常的にゴミ分別によるエコロジー化を推進しており、概ね当初の目標は達成できた。	広い敷地に歴史を感じる樹木が多く茂り、学習しやすい環境となっている。生徒一人ひとりが学習環境を大切にすることを育ててほしい。
教務	「わかる授業」をめざし確かな学力を定着させる。	・毎学期の授業アンケートに基づく授業改善やシラバスの改善を図る。	4. すべて実施し改善が十分に図れた。 3. すべて実施し改善が60%以上図れた。 2. すべて実施し改善が30%以上図れた。 1. すべて実施し改善がある程度図れた。	2	毎学期授業アンケートを実施した。教員はアンケート結果により授業改善を行っている。アンケート結果も生徒は授業に対して、4段階中3以上と概ね良い評価である。	多くの保護者が工夫をお願いしたい。集中力を持って授業に臨む生徒の授業態度の向上を先生方に更に目指してもらいたい。
生徒指導	基本的な生活習慣や態度の育成	・遅刻防止や挨拶の励行、服装の整備など基本的な生活習慣を身につけさせる指導を計画的に行う。	4. 遅刻者が20%以上減少した。 3. 遅刻者が10%以上減少した。 2. 遅刻者が5%以上減少した。 1. 遅刻者が増加した。	4	遅刻者総数は、昨年同時期(1月末)に比較して、20%以上減少している。	生徒登校時に全教員で取り組んでいる挨拶運動などから、良い効果となって現れているところもあると思う。
特別活動	生徒を主体とした学校行事の充実	・体育祭や山工祭が生徒にとって真に魅力ある行事になるための工夫や改善を図る。	4. 95%以上の生徒が主体的に参加した。 3. 85%以上の生徒が主体的に参加した。 2. 75%以上の生徒が主体的に参加した。 1. 60%以上の生徒が主体的に参加した。	3	新型インフルエンザの影響で、山工祭初日の体育館行事を中止したため、生徒が主体的に活動する場が少なくなった。他の行事については、例年並あるいは例年以上に生徒会役員を中心とした活動が見られた。(山工祭、映画企画、体育祭パフォーマンス合戦等)	毎年、体育祭を楽しみにして見学している。熱心に競技を行う生徒に感服している。地域の住民にとっても魅力ある行事である。
	部活動の活性化	・年間目標の達成に向けた日々の練習に取り組む。	4. 目標とする内容の9割が達成できた。 3. 目標とする内容の8割が達成できた。 2. 目標とする内容の7割が達成できた。 1. 目標とする内容の6割が達成できた。	3	今年度も全国大会に、ソフトテニス部、バスケ部、バドミントン部、メカロボ部、写真部、書道部が出場し、中国大会にも卓球部、弓道部、陸上競技部、水泳部が出場した。また、硬式野球部は3年ぶりに夏の大会でベスト8に残るなど、多くの部が好成績を残した。これも継続的に日々の練習に真摯に取り組んできたことと思われる。	夏の甲子園山口大会は、決勝大会に駒を進め、応援では大いに盛り上がった。山口国体も近づき、全ての部がレベルアップしてほしい。
進路指導	三年間を見通した進路指導の充実	・生徒一人ひとりの進路希望を的確に把握し、能力・適性に基づいた進路獲得の支援を充実させる。	4. 各学年とも学期に4回以上指導できた。 3. 各学年とも学期に3回以上指導できた。 2. 各学年とも学期に2回以上指導できた。 1. 各学年とも学期に1回以上指導できた。	3	進路希望調査を年間2～3回実施し、生徒の進路希望を把握した。LHRの時間が限られるので、担任等を通じて指導を行った。課題として、進路に対する意識の低い生徒、及び2年生に対する指導を再検討する必要がある。	厳しい求人状況の中で、就職希望者の内定100%を昨年に引き続き達成されたことに感謝したい。各学年に必要な就職情報の的確に伝えてほしい。
	適切な進路指導のための情報提供	・生徒や保護者に進路情報を学期毎に提供する。 ・求人票や過去の報告書等の電子情報更新を定期的に行う。	4. 進路情報を5回以上提供した。 3. 進路情報を4回提供した。 2. 進路情報を3回提供した。 1. 進路情報を2回提供した。	3	進路情報の電子化を進め、利用環境を整えた。また、必要な情報は、担任等を通じて提供することができた。提供した情報を生徒が如何に活用するか。また、保護者に確実に伝わるようにすることが課題である。	来年度も就職状況は厳しいことが予想される。引き続き、早い段階から多くの就職情報を保護者に伝えてほしい。
保健体育	生涯体育・スポーツの基礎を培う	・個別に応じた指導により、生涯体育・スポーツに必要な基礎体力・精神力・競技力の向上を図る。	4. スポーツテストの総合評価が20%以上向上。 3. スポーツテストの総合評価が10%以上向上。 2. スポーツテストの総合評価で現状を維持した。 1. スポーツテストの総合評価下がった。	2	・選択制授業の導入により、目標はほぼ達成できている。 ・スポーツテストの結果は、全国平均と比較しても良いといえる。さらにバランスの良いレベルアップを目指したい。 ・体育祭は良くできていると思う。	1500m走や、シャトルランなど、全国平均よりも高い種目があると聞き、部活動の好成績とも関連していると思う。選択制授業等を効果的にを行い、レベルアップを図ってほしい。
	健康指導の充実	・定期健康診断等による健康状態に基づく事後指導を徹底する。	4. 受診・治療率が20%以上増加した。 3. 受診・治療率が10%以上増加した。 2. 受診・治療率が同程度であった。 1. 受診・治療率が減少した。	1	受診・治療報告は4回文書で行ったが、受診率は2月8日現在、28.6%で、昨年の37.6%(3月末)より低い。受診を要することを自覚していない生徒へ、繰り返しての指導が必要である。また、学年、クラスによって、受診率に差があり、担任や部活動顧問の協力を得て、全体で指導を行うことが効果的ではないかと考える。	受診・治療報告に対しては、確実に治療に行くように説明してやるとともに、長期休業中や放課後でも受診できるように、時間的な配慮も考えてほしい。
図書視聴覚	読書活動の充実と視聴覚機器利用の拡充	・広報活動を強化し、読書に対する関心を深める。 ・生徒委員会(図書・放送)の活動を活発にする。	4. 広報や委員会活動がすばらしい実績を得た。 3. 広報や委員会活動がかなり充実した。 2. 広報や委員会活動が一定程度充実した。 1. 広報や委員会活動が低調であった。	2	年度当初から図書室が閉鎖されたため、活動は大幅に制限された。委員会活動については、不慣れな状況において、それぞれ工夫して難局に対処した。	アスベストのため1年間図書室が閉鎖の状態であったことは、たいへん残念なことである。そういう状況での対応に感謝したい。
人権福祉	人権尊重の意識を高める教育の推進	・LHRにおける人権教育の充実を図る。	4. 計画に基づき十分な成果が認められた。 3. 計画に基づき成果が認められた。 2. 計画は実施されたが成果が出ていない。 1. 計画が十分に実施できず成果も出ていない。	3	山口県の人権課から、「子ども(いじめ)・障害者・ハンセン病問題」を中心にLHRを展開した。約8割の生徒が人権教育は必要であると考え、学習のねらいや内容についても8割以上が理解できたとしている。効果的な推進のためにも、生徒の興味や関心を喚起できる教材の精選や、家庭や関係機関との連携が必要であろう。	色々な教材を利用して生徒の人権に対する意識を高めておられることを知ることができた。
	ボランティア活動を通しての福祉教育の充実	・ボランティア活動の活性化を図る。	4. ボランティア活動の目標を達成した。 3. ボランティア活動の目標8割を達成した。 2. ボランティア活動の目標6割を達成した。 1. ボランティア活動の目標5割を達成した。	3	ボランティア委員会を年間11回開催し、収集ボランティア(ペットボトルキャップ、書き損じハガキ等)を中心に活動をした。校外においては、JRC部員を中心に、福祉施設訪問、募金・献血・清掃活動等に参加した。文化祭の展示部門でその取組をPRしたが、活動の継続化と、活動の輪をいかに広げていくかが今後の課題である。	全校の生徒が、多くの機会をもって、ボランティア活動を行う企画を工夫して行ってほしい。

工業教育	ものづくりを中心とした専門教科の特色づくりの推進	・ものづくりへの意識を高め、ものづくりコンテスト等に参加する。 ・地域と連携した特色ある環境教育の推進(エコリーダースクール等)。	4: 全国大会で入賞した。 3: 全国大会に出場した。 2: 中国大会に出場した。 1: 中国大会に出場できなかった。	4	<コンテスト関係> (全国大会) 化学分析部門出場 高校生ロボット相撲中国大会 1位、2位 高校生ロボット相撲全国大会 ベスト8、経済産業大臣賞受賞 高校生ロボットアメリカンフットボール大会 3位 <環境教育> 中学校での出前講義、宇部まつりおよび山口県ものづくりフェスタ2009へ出展し環境に関する取り組みをPRした。 レベルアップタイム、放課後に於ける指導および専門科目授業内容に即した資格への取り組みを行った。生徒の資格取得意欲も高まり、難関である危険物甲種および高圧ガス製造保安責任者(化学)も合格した。	新聞の記事などにより、宇部工高の生徒の活躍を知る機会が多かった。運動部とともに、「ものづくり」においても全国大会出場と入賞を期待しています。	A
	資格取得指導の充実	・生徒の資格取得に係わる指導体制を整え、取得率の向上を図る。	4: 資格取得目標3000ポイントを取得できた。 3: 資格取得2700ポイントを取得できた。 2: 資格取得2500ポイントを取得できた。 1: 資格取得2300ポイントを取得できた。	4		学校全体で資格取得に取り組んでいることはいへん有難いことだと思っている。積極的に資格に挑戦する生徒をしっかりと援助してほしい。	
業務改善	学校の組織等	・主担当・副担当等の業務分担の見直しや改善を進める。	4: 業務分担改善が進み心にゆとりが生じた。 3: 担当者に業務の偏りがなく改善が進んだ。 2: 業務分担はさらに改善の余地がある。 1: 業務分担はあまり改善しなかった。	2	学校安全委員会やインターンシップ委員会等、新しい業務が増え、今ある業務の見直しによるスクラップ&ビルドが求められる。	業務の多忙化の中で、業務分担を適切に進め、生徒へは余裕を持って接していただきたい。	B
	日常的な業務	・生徒指導や事故等の緊急対応時の情報交換、また研修・会議等の出張の復伝等の情報の共有化を推進する。	4: 情報共有と活用、緊急時対応も支障なし。 3: 情報共有ができて、有効に活用された。 2: 情報共有ができて、有効活用されなかった。 1: 情報に混乱が生じ、業務等が滞った。	3	校内ランによるネットワーク利用から、情報の共有化が自由に行われる環境にある。一方で、日常の生徒の状況や行動、学習への取組、各部の活動などについて、その時々々の情報を伝え合うコミュニケーションの場や機会をさらに増やすことも必要である。	生徒一人ひとりの学校での様子をしっかりと把握して、同時に家庭との連携の取れた指導をお願いしたい。	
	勤務状況	・出張、代休、休暇等に対応する勤務管理の適正化を推進する。	4: 円滑な勤務管理が行われた。 3: 授業変更等、特段の支障はなかった。 2: 授業変更等、改善の余地がある。 1: 偏りのある勤務管理となった。	3	出張等における授業の変更などに支障はなかったが、部活指導のために、長時間の業務を行い、負担が大きくなっており、健康管理面から改善に向け課題が残る。	部活動を指導いただく先生方の放課後遅くまで、また休日をも厭わない熱意ある姿勢に感謝しています。	
	勤務の適正な管理						

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

創立88周年となる歴史と伝統を生かし、地域から信頼される学校づくりを目指し教育活動を推進した。体育祭や山工祭(文化祭)には、多くの来校者があり、熱心に応援され、また生徒との交流を楽しんでもらうことができた。2月中旬に実施した1年生全員参加のインターンシップでは、57事業所の協力を得ることができ、生徒は勤労観・職業観など多くのことを学ぶことができた。

部活動については、ソフトテニス部の4名が新潟国体に出場し第5位入賞、山口県から国体栄誉賞を受賞した。また、バスケットボール部からも2名が新潟国体に出場した。文化部では、山口県高等学校総合文化祭で写真部員と書道部員の作品が優秀賞を受賞し、来年度の全国高校総文に出展されることが決定している。メカトロ部は、高校生ロボット相撲全国大会でベスト8、経済産業大臣賞を受賞した。さらに、高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会では、3位に入賞した。ほかにも多くの部が中国大会に出場しており、運動部、文化部とも多くの成果をあげた1年であった。

進路指導は、厳しい就職状況であったが、早期に全員の内定を得ることができた。来年度も厳しい状況が予想されるが、新3年生の指導を強化して対応したい。

工業教育については、ものづくりの技能・技術の意識を高め、ものづくりコンテスト等において、昨年以上の実績を残すことができた。(電気工部門県大会3位、中国大会出場、化学分析部門1位および2位、中国大会出場 化学分析部門中国大会1位および3位、全国大会出場、高校生ロボット相撲全国大会 経済産業大臣賞受賞、全国高校生ロボットアメリカンフットボール大会 3位) また、環境保全活動において引き続きやまぐちエコリーダースクールの認証を受けた。今年度もキャリア教育充実のため、三学期に1年生全員参加によるインターンシップを実施した。